

デジタル教材を活用する英語授業

唐澤 博



◆板書が命？

板書技術は教師の生命線です。全体のレイアウト、文字サイズ、色使い、絵などの工夫、書くスピード、消すタイミング、さらに、教室全体への目配りをしながら立ち位置を考えての説明…など「わかりやすさ」を第一に板書していきます。しかし、ICTの進化のおかげで、黒板に書かなくても、授業はできるようになりました。離れた位置から、手元のPCやタブレットのデータを黒板に投影すればいいのです。手書き入力だってできますから、味のある文字も再現可能です。しかも、redo(繰り返し)/undo(元に戻す)で簡単に書き換えも可能。記録しておいて後で見直すことだってできます。「先生消さないで」なんて言われても、1回のクリックやタップ動作ですぐ復元。効率は抜群にあがります。

◆黒板はよい？

「黒板○よい。」というとき、○にどんな助詞が入るでしょうか。黒板はよい。黒板がよい。黒板もよい。黒板でよい。この最後の「黒板でよい」と言ってしまう人の心理は、電子黒板がなくても、黒板のできるから、何も他の手段なんかいらな…なのです。「電子黒板」vs「黒板」とか、「電子辞書」vs「紙の辞書」などの論争は、「代用」のレベルでの活用議論にとどまっているから、「黒板でいい」「紙の辞書でいい」で終わってしまうのです。ICTの活用で、つい最近まで想像もできなかった新しい授業スタイルが可能となります。つまりICT活用は、従来の教え方や、

学び方の「代用」ではなく、新しい活用の議論をし、発展・進化していかなければなりません。そしてそれは、授業形態も含めた教育方法の新しい再デザイン化にもつながります。

◆効果的な授業に向けて

スマホ、タブレットなど、誰でも比較的簡単にネットにアクセスできるテクノロジーが日常生活の中に浸透している今、知識がある人（先生）から教わるという学習スタイルだけではもはや通用しない時代です。しかし、教え方が、生徒の理解を左右することはだれも否定しないでしょう。21世紀になって、特にテクノロジーの知識が教科指導でも大切になってきたのです。英語教育のみならず、すべての教科科目で、3つの知識 [1. content knowledge：教える内容についての知識 2. pedagogical knowledge：教え方に関する知識 3. technological knowledge：テクノロジーに関する知識] を基礎として、それぞれの知識がばらばらではなく、それぞれを補完させあいながら、効果的な授業を展開することが必要です。このテクノロジーの導入には、専門の工学的な知識が必要だと思いがちですが、だれにも扱えるものがあります。それが、プレゼンテーション用ソフトのパワーポイントです。ビジネスシーンでは当然のソフトですが、授業を進めるうえで、かなり効果的な使い方ができるのです。

◆文字は止まっているもの？

ニコニコ動画（ニコ動）をご存知でしょうか。

子どもたちの間で広がるこの人気動画配信サイトでは、動画画面にリアルタイムに書き込みがされ、どんどん流れる文字情報を読みとり、さらにそこへ書き込んでゆくという、我々世代には考えられないような情報交換がされています。昨今のTVでも必要以上と思えるような文字情報が画面を賑わしています。これは、映画のタイトルやクレジット、CMなどでも活用される、文字を動かして、アイディアや感情を効果的に伝える kinetic typography とされるものの一つです。実はデジタルネイティブたちのスキニング能力は、進化しているようなのです。動くものに反応する世代とでもいえるかもしれません。例えば、私の体験では、発音練習を先生の口頭によるだけの場合と、パワーポイントのアニメーション効果を使ったり、flash で作られた口腔内が動くもの (www.uiowa.edu/~acadtech/phonetics/) を見せたりする方法と比較をすると、発声に対する意欲は後者の方が上です。学習意欲に欠ける生徒でも、むきになって映し出される文字のスピードに負けないよう繰り返そうとします。「先生もう一度」と言われたらその気になっている証拠ですから、意欲面だけでも従来の訓練よりかなり効果が出ています。同じように、アニメーション効果を使って、文字を消したり現したりしながら、読ませることを促すやり方は、通り一遍の音読よりやる気を出させます。単語レベルでマスキングをかけて見えなくするなどの負荷をかける読ませ方でも、前を向かない、ぼそぼそと音読する、覚えようとしないうちに生徒にかなり有効な方法です。例えば、音読の一つの方法である、read & look up は、pedagogical knowledge (教え方の知識) ですが、ICT を使わなくてももちろんできます。しかし、パワーポイント (technological knowledge) を使って、前を向かせたまま、文字を消せば同じことです。正しい姿勢で音読し続けることができます。初見の英文などを読ませる際には特に効果的です。

◆大修館版パワーポイントスライド集について

各社からデジタル教材が提供されていますが、レディーメイドの教材には限界があります。生徒の実情に合わせて、コンテンツの変更をしつつ、活用したいものです。特に大修館から提供されるパワーポイントデータは、*Departure I* なら、PDF が元になっていて、生徒の持つ教科書と全く同じレイアウトになっています。モニターに提示されれば、どこを学習しているかが一目瞭然です。また、練習問題の解答表示の際も確認しやすく聞き逃しはおきません。また、音声に適宜貼り付けられているので、CD などのメディアでする頭出しなどの手間はかかりません。画面上で対象音声をクリックするだけです。必要なところをピンポイントで聞かせられます。また、リスニング教材としても活用できるようにスクリプトがマスキングしてあったり、解答を消したり、現したりクリックで簡単にできます。音読を促すために、文字を消していったり、現したりのアニメーション効果を使った練習もできるようになっています。

Genius I, II では、新出単語のフラッシュカードが音声付きで作られていますので、単語学習は効率的に行えます。もちろん、新たな単語を付け加えることも可能です。デジタル教材の最大の利点は、コピー・ペーストで使いまわしができることです。あるページをコピーした場合、アニメーション効果も同時にコピーされるので、文字情報を打ちかえるだけで、簡単に新たな単語を付け足していけます。複雑なデジタル教材でなく、このようなパワポを応用する方が効果的な場合もあるでしょう。

*

パソコンやタブレットは道具です、すべてを解決するものではありません。クリックあるいはタップ・ティーチャーなどと揶揄されないよう、想像力と工夫をもって、デジタル教材を活用しましょう。

(からさわ ひろし・浦和実業学園高等学校教諭)